

経営悪化と資本構成の変化について

1. 収益力の低下は資金調達力を低下させる

業務と財務は車の両輪とよく言われますが、経営活動には常に資金活動が併走しています。必要とする資金が必要なとき必要な金額だけ調達できるのであれば問題はありませんが、世の中そんなにうまくできてはいません。通常、営業収入により支出が賄われているのであれば問題ないのですが、会社が儲からなくなってきましたと、次第に資金調達に影響が出てきて、対外的な信用が落ちたり、社内の雰囲気や従業員の志気が低下するなどマイナス要因が多くなってきます。

B / S		P / L		収益力が低下し赤字に転落すると、営業収入不足により回収と支払のタイミングがズレてくることから資金繰りに大きく影響してきます。会社としては、不足資金を何としてでも調達しなければならないのですが、赤字転落では増資は難しく、結局メインの金融機関に頭を下げて借り集めることになります。収益力低下が続くとメインの金融機関も貸出しを抑制し、追加融資に応じなくなり、資金調達力は急激に落ち込んでいきます。
流動資産	流動負債	費用	収益	
固定資産	固定負債		欠損	
	(欠損)			
	資本			

2. 資金調達力の低下は資本構成を変化させる

金融機関からの資金調達が厳しくなると、会社は「背に腹は代えられず」買掛金や未払金など負債債務の支払を先延ばししたり、遊休資産の売却をはかっていきます。この結果、

B / S		P / L		買掛金や未払金、借入金などの負債が増加するのに対して現金・預金などの流動資産や売却すべき固定資産は底をつき、結果として、負債が資本を食べ尽くす格好となり、ついには債務超過の状態に転落していきます。
流動資産	流動負債	費用	収益	
固定資本	固定負債		欠損	
	(欠損)			
債務超過				

3. 資本構成が(悪い方へ)変化すると流動性が低下する

資本構成が悪化すると、流動資産と流動負債のバランスが崩れて、流動性(会社の支払能力)は低下し、資金余裕がない状態となっていきます。

このように、会社の収益力は、会社の資本構成の変化に影響を与え、さらに流動性と密接に関係していきます。

収益性の良し悪しは、流動性の良し悪しに影響を与える、比例的な関係にあります。